

令和3年度 第5回 鈴鹿市地域公共交通会議 議事要点録

日 時	令和4年3月18日（金）14:00～16:00	
場 所	鈴鹿市消防本部 4階 多目的室	
出 席 者	交通ジャーナリスト 鈴木 文彦（副会長） 中部大学工学部都市建設工学科教授 磯部 友彦（副会長）【欠席】 三重交通株式会社バス営業部部長（乗合） 増田 浩士 三重交通株式会社中勢営業所長 川端 邦裕 三重交通労働組合 中部支部支部長 高橋 克典 鈴鹿市旅客自動車協会鈴乃会会長 辻 泰生【欠席】 近畿日本鉄道株式会社名古屋統括部運輸部営業課課長 山本 淳 伊勢鉄道株式会社取締役総務部長 小林 孝司（監査委員） 中部運輸局三重運輸支局首席運輸企画専門官 鈴木 博行 三重県地域連携部交通政策課係長 濱口 竜一（代理） 三重県鈴鹿建設事務所副所長保全室長 高柳 伸浩【欠席】 鈴鹿警察署 交通第一課交通規制係長 近藤 竜仁（代理） 鈴鹿市副市長 内藤 洋（会長） 鈴鹿市自治会連合会 副会長 原田 吉次 鈴鹿市老人クラブ連合会 会長 山本 勝也 鈴鹿市老人クラブ連合会 女性部 山口 小夜子【欠席】 鈴鹿市生活学校 会長 渥美 恭子 鈴鹿商工会議所 副会頭 田中 久司【欠席】 鈴鹿市社会福祉協議会 会長 亀井 秀樹（監査委員）	

1 あいさつ

【会長】

平素より、市政各般にわたるご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

今般、少子高齢化やコロナ禍の影響で地域公共交通は厳しい状況におかれている。

生活様式の変化に伴い、地域公共交通の役割も変化しているため、行政、交通事業者、住民が一体となって、課題解決に取り組んでいくことが重要である。

本日は、「鈴鹿市地域公共交通計画（案）」の審議と最終とりまとめを行うため、忌憚のないご意見をいただきたい。

【事務局】

会議は公開とし、議事要点録を後日市HPへ公開してよいか。

（－ 異議なし －）

【会長】

本日の出席は委員 19 名中 14 名の出席があり，会議成立を宣言する。

2 協議事項

(1) 鈴鹿市地域公共交通計画（案）について

【事務局】

資料 1，2，「鈴鹿市地域公共交通計画（案）」に基づき説明。

【副会長】

本計画（案）や各意見への対応は，説明内容でよろしいかと思う。

パブリックコメントで，オンデマンド交通にかかる意見が多かったのは，タイミングが理由の一つではないか。

共助や，実証実験として全国数カ所で行われているスローモビリティ等は，メリットばかりがアナウンスされる傾向にあり，それに目が行ってしまうが，本当にその地域に適しているか，あるいは誰が費用を負担するかを検証すべき問題である。

今後，本計画に基づき事業計画を進める際には，こうしたことを検証して進めていただきたい。

【委員】

本計画（案）はこうした形かと思う。

今後は，本計画（案）39 頁「施策 2-1①地域主体の移動手段導入のための手引書の作成」等が重要になると考える。

施策を実施していく際には，地域住民との意見交換を行っていただき，自治会や地域づくり協議会の意見，パブリックコメントの意見等とすり合わせを行うことが重要である。

様々な形で意見を集約し，手引書の作成を進めていただき，実効性のある計画にしていきたいと思います。

計画の推進にあたっては，福祉部局等の関係部局とも連携し，取り組んでいただきたい。

【会長】

本計画は，地域公共交通活性化再生法に基づく法定計画として策定する。同法に基づく協議会で採決を行い，出席委員の 4 分の 3 以上の賛成を以て議決，計画策定の運びとなる。

【委員】

パブリックコメントの件数が多く，市民の関心の高さを感じた。

他自治体では，パブリックコメントが 1～2 件に留まる地域もある。計画策定後には，

計画に基づき地域公共交通の維持確保に努め、市民の期待に応えるようにしていただきたい。

【会長】

本計画（案）の変更を求める意見はないため採決を行う。

賛同委員は挙手を求める。

（－ 挙手多数 －）

【会長】

挙手多数と認め、鈴鹿市地域公共交通計画（案）は議決された。

【事務局】

鈴鹿市地域公共交通計画は、4月中旬に市HPで公開する。

3 報告事項

(1) 一ノ宮地区乗合ワゴン実証実験の現況について

【事務局】

資料3に基づき説明。

【委員】

実証実験結果に対する評価を伺いたい。

【事務局】

令和3年12月1日以降に、運行計画を変更した乗合ワゴンは、月・水曜日路線の乗車人数が増加した一方で、火・木曜日路線はやや増加という結果であった。

コロナ禍や冬季の気候の影響で高齢者等の外出が鈍った影響もあると考えており、今後、地域の声を聞きつつ、運行計画の見直しを検討し、実証実験を進めていく。

【委員】

自治会、地域づくり協議会の取組にも影響が考えられることから、可能な限り良い結果となるよう努めていただきたい。

【副会長】

今回の報告を見ると事業性では厳しいが、曜日限定で運行する乗合タクシー等の全国的な状況を俯瞰すると1.0人/便前後が多いことから、月・水曜日運行便の便あたり人員1.21人/便という数字は希望が持てるかと思う。

乗降実績を確認すると、両方の便が運行する一ノ宮集会所の利用が多いことから、地域

と意見交換等を行い、その要因等を検証いただきたい。

(2) 令和 3 年度鈴鹿市地域公共交通会議事業報告（見込み）について

(3) 令和 3 年度鈴鹿市地域公共交通会議決算報告（見込み）について

【事務局】

資料 4, 5 に基づき説明。

本報告では、本日の会議にかかる経費や計画策定の委託事業者への支払が完了していないことから「見込み」としている。

内容が確定した時点で、監査委員に監査いただき、改めて委員に諮る。

(4) 令和 4 年度鈴鹿市地域公共交通会議事業計画（案）について

(5) 令和 4 年度鈴鹿市地域公共交通会議予算（見込み）について

【事務局】

資料 6, 7 に基づき説明。

4 その他

・市内の地域公共交通の現状

【委員】

乗合バス事業にかかる直近の利用状況を報告する。

前回会議では、コロナ禍が落ち着いており夏頃より従来 6 割程度の水準から 7 割程度まで緩やかに回復してきたと報告したところだが、その後第 6 波により、直近では乗合バス事業（高速バス等を含む）収入の収入ベースで 6 割程度まで減少している。

最も落ち込んだのは、2020 年 5 月の 8 割減であり、その後秋頃に向けて回復し、その後 4 割減程度で推移し、昨夏に回復したが、また 4 割減に戻る状況で、長い目でみると 4 割減程度が継続している。

原油価格の高騰を心配しており、2020 年 4 月頃と比較し 46 円/L 程度価格が上がっているほか、ウクライナ情勢等で価格の高止まりが見込まれる。

乗合バス事業では、軽油を 1 千万 L/年使用するため、単価 1 円上昇で年間経費 1 千万円の影響があり、今後の事業継続に危惧している。

先行きが不透明であるが、路線バスは、日常生活・社会生活を支える社会インフラとしての責務があるため、国、三重県、鈴鹿市等自治体から支援をいただいております、安全な運行を継続したい。

【委員】

日頃は伊勢鉄道の利用や様々な支援に感謝する。

伊勢鉄道は、特急・快速みえが収入の大半を占めるが、特急・快速は対前々年度（2019年度）比で輸送量4割程度となっている。

普通列車は、対前々年度比8割程度まで回復し、12月末までの累計は、対前々年度比54%程度（対前年度比約120%）となっている。

普通列車は、沿線の方の利用が右肩上がりが増えてきているものの、単価の高い快速・特急の輸送量が減少し、収入が落ち込んでいる。

本年3月27日に伊勢鉄道開業35周年を迎えるため各種取組を行いたい、コロナ禍で実施が難しく、記念切符発売や小規模イベントの開催等を予定している。

来年9月には国鉄伊勢線開業50周年となるため、今年から来年にかけ、各種イベントを予定している。

3月21日には、「令和4年3月21日記念 カウントダウン切符「4321」を鈴鹿駅で発売するほか、3月27日限りでライドバス（スマホで乗車券を購入 大人100円 小人50円で1日乗り放題）を予定している。

【会長】

各種取組について情報共有し、関係者が協力することは、本計画の推進においても重要である。

【委員】

近鉄における直近の利用状況は、本年の三重県まん延防止等重点措置（1月21日～3月6日）期間は、昨年三重県緊急警戒宣言（令和3年1月14日～3月7日）時より厳しい状況である。

利用者数が、定期外利用者でマイナス50～55%程度、定期利用者でマイナス17～20%程度、全体で40～45%減程度を推移している。

まん延防止等重点措置解除以降は、乗車人員が戻りつつあるが、どこまで戻るか見通しはたっていない。

市の地域資源活用課と9月鈴鹿げんき花火やF-1開催に向けた連携を協議しており、沿線駅や特急停車駅での鈴鹿市のPRを検討しているほか、鈴鹿市政施行80周年（令和4年12月1日）等も含め、連携を図りたい。

鼓ヶ浦駅（旧 子安観音駅）では開業100周年となるが、「子安観音寺仁王門有形文化財登録50周年記念入場券」の記念切符を販売し、300枚程度の販売となった。

3月26日は、明和町の神宮ゲートウェイ（斎宮駅前の開発）との連携で「鉄道ロゲイニング in 明和町」を開催し、80名に参加いただく予定であり、今後実施するイベントとして酒蔵ハイキングを湯の山線、伊勢方面で計7回実施予定である。

酒蔵ハイキングは、600～700名が参加されるイベントであるため、鈴鹿市においてもコロナ禍を踏まえて、感染対策を行った上で実施できればと考えている。

デジタル乗車券を3月17日より名古屋駅発着に限定して発売を開始し、今後は、改札のQRコード化で企画乗車券等をスマートに、かつ他交通手段との連携を含め、簡単に旅

行できるよう取組を開始している。

【副会長】

全国的な傾向では、2019 年度比で、バス全体（高速バス等含む）4 割減、路線バス・普通列車 70～80%であり、鈴鹿市とも類似した傾向である。

コロナ禍後も 100%まで戻らない観測が持たれており、生活様式の変化（夜間の行動の減少、テレワーク等による働き方の変化等）が要因と考えており、事業としての厳しさは今後残る。

第 6 波は、感染者数が増えるのに伴い、濃厚接触者も増えたことにより、バス乗務員が出勤できない等の状況が課題となり、乗務員不足が、以前とは別の理由で全国的に発生している。

東京でも、平日に土休日ダイヤでの運行を強いられる事業者もある等、コロナ禍により派生した厳しさもあり、今後の変化を見据えていきたい。

コロナ禍の先行き見通せない中、落ち着いていくのであれば、今の生活ニーズに最大限あわせられるサービスの提供と、公共交通を活用した地域の移動の充足を議論する必要があるため、今後も継続した議論をお願いしたい。

【事務局】

書面開催した第 4 回鈴鹿市地域公共交通会議でご審議いただいた、令和 3 年度地域公共交通確保維持改善事業の自己評価結果を中部運輸局に報告した。

令和 4 年 3 月 10 日付けにて、通知を受けた二次評価結果を 3 点報告する。

1 点目、調査事業は、計画どおりの実施を確認いただいた。

2 点目、調査結果を踏まえ持続可能な地域公共交通サービスを実現するための計画策定を期待する旨の意見をいただいた。

3 点目、地域間幹線系統のうち輸送量が低迷する系統について、現状や課題を県・関係市町村・関係事業者と共有するとともに、系統の必要性に応じ、利用促進や系統維持に向け関係者と連携して取組を実施することを期待する旨の意見をいただいた。

交通会議委員の任期は、令和 4 年 6 月 9 日であり、人事異動等で新たに委員を選出される場合は、会議規程に基づき交通会議会長による委員委嘱・解嘱を行い現委員に解嘱書、新委員に委嘱書を交付するため、事務局まで連絡いただきたい。

【会長】

議事進行への協力や貴重なご意見を賜り感謝申し上げます。

【事務局】

委員各位におかれては、計画策定にご協力を賜り感謝申し上げます。

令和 4 年度より、行政、交通事業者、地域等の関係者が一体となり計画を推進していくこととなるが、取組内容やスケジュールについては、5 月中上旬～中旬に交通会議を開催

し協議させていただく。

交通会議の日程については，別途調整させていただく。

以上